

平成 27 年度 第 4 回 稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議
議事録 【要点記録】

【開催日時】平成 28 年 3 月 24 日（木） 午後 7 時から 8 時 25 分

【会 場】消防署 3 階 講堂

【出席者】■委員；出席者 14 人

- ・ 稲城市自治会連合会（川島 幹雄氏）
 - ・ 稲城市農業委員会（松本 一宏氏）
 - ・ 稲城市商工会（奈良部 義彦氏）
 - ・ 稲城市消防団（城所 達也氏）
 - ・ 稲城市体育協会（中家 敬士氏）
 - ・ 稲城市教育委員会（城所 正彦氏）
 - ・ 教育関係及び稲城市三曲協会（粟井 洋子氏）
 - ・ 稲城市芸術文化団体連合会（安東 道正氏）
 - ・ 稲城市立学校 PTA 連合会（高橋 やよい氏）
 - ・ 稲城市青少年育成地区委員会正副委員長会（石橋 良生氏）
 - ・ 稲城国際交流の会（藤田 佑二氏）
 - ・ 東京稲城ロータリークラブ（川島 保之氏）
 - ・ 国際ソロプチミスト稲城（砂塚 有子氏）
 - ・ NPO 法人市民活動サポートセンターいなぎ（角田 享氏）
- <欠席>稲城青年会議所（椿 克之氏）

■行政

- ・ 事務局 4 人（企画部長（武藤 路弘）、企画政策課長（杉本 勇人）、
企画政策課計画調整担当係長（宇田 雅彦）、企画政策課主任（井田 聡））

【開会】

委 員 長：定刻になりましたので、平成 27 年度第 4 回稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議を開催いたします。まずは事務局から配布資料の確認をお願いいたします。

宇 田 係 長：それでは、配布資料の確認をさせていただきます、本日お手元に配布しております物は、7 点になります。

- ① 次第
- ② 資料 1、総務委員会報告資料
- ③ 資料 2、第 3 回海外姉妹都市提携検討市民会議平成 27 年 12 月 17 日開催（案）
- ④ 資料 3、府中市のウィーン市との友好都市提携について（検討委員会の経緯等）
- ⑤ 資料 4、自治体国際化協会 海外との交流を希望する自治体の紹介について
- ⑥ 名簿
- ⑦ 座席表

以上 7 点になりますが、こちらは委員の方も、傍聴されている方も同じ資料をお配りして

います。不足などございませんでしょうか。

【報告1】平成28年2月9日 総務委員会への報告について

委員長：それでは、議題に入る前に、報告ということで、報告1から報告4まで、事務局より説明をお願いします。

杉本課長：それでは、報告1としまして、平成28年2月9日に市議会総務委員会へ報告をさせていただきました、稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議の検討経過について、概略をご報告させていただきます。

1. 市民会議の委員構成

15人で構成されています委員について、それぞれの推薦団体を含めてご報告をさせていただいています。

2. 市民会議の開催状況等

(1) 第1回市民会議

開催日時、会場、出席委員を報告させていただいています。また、第1回の市民会議は、委嘱状の交付、自己紹介、市民会議設置要綱、委員長・副委員長の選出、これまでの経過等を議題として開催し、海外との姉妹都市提携について以下の意見が出されたということで、主な意見の要約を説明しています。

- ・子どもたちに素晴らしい夢の持てる場所を作ってあげたい。
- ・積極的に検討すべきである、スポーツを通じた市民交流ができるとよい。
- ・グローバル化の中では進めていくべきである。
- ・姉妹都市提携で海外との距離を縮めて行けたらいい。
- ・海外との姉妹都市でどのようなことができるか色々な国や街を調べて一から検討する必要があるのではないか。
- ・稲城市の海外交流の歴史を整理した上で進めていく必要があるのではないか。

(2) 第2回の市民会議

開催日時、会場、出席委員を報告させていただいています。また、第2回の市民会議は、稲城市のこれまでの海外交流実績、海外姉妹都市提携の在り方等を議題として開催し、稲城市のこれまでの海外交流実績について、行政以下、様々な団体から報告を行った際に、以下の意見が出されたということで、主な意見の要約を説明しています。

- ・国際交流の必要性は感じた、金銭的な補助を含めて考えることが必要である。
- ・交流をしていくことは賛成であるが、姉妹都市になったらすぐに子どもを行かせるというのは現実的ではない。
- ・姉妹都市を結ぶことで交流の選択肢は増える。
- ・姉妹都市を結ぶというきっかけ論はいろいろある。
- ・どういう形態の交流ができるのかを組み立てることが一番肝心なことである。
- ・姉妹都市になれば小さい子からお年寄りまでみんなが交流できる。
- ・団体が交換留学を行うことと姉妹都市を結ぶことは別である。
- ・安心して市民が行けるような道しるべを作ってあげたい。

また、海外姉妹都市提携の在り方について以下の意見が出されたということで、主な意

見の要約をしております。

- ・茶道・華道などの交流ができれば我々の文化を向うに伝えることができる。
- ・グローバル化社会の中で国際社会に出ていかなければいけない時代で、青少年がもっと海外へ飛び出す機会を作れる。
- ・きっかけは色々あるので、今回のことをきっかけに進めることで、この会議も進んでいく。
- ・海外都市と交流することは良いが、姉妹都市提携ありきと言うことには賛成できない。

(3) 第3回市民会議

開催日時、会場、出席委員を報告させていただいています。また、第3回の市民会議は、海外姉妹都市提携を希望している海外の都市、自治体国際化協会の情報、海外姉妹都市との交流、他自治体での交流事業一覧等を議題として開催し、海外姉妹都市提携を希望している海外の都市について以下の意見が出されたということで、主な意見の要約を説明しています。

- ・日本との交流を希望している国は、中国が多いと感じた。
- ・英語は世界的な言語になりつつあり、一番良い。
- ・国際性を育むのであれば、海外姉妹都市提携は早急に考える課題である。
- ・海外姉妹都市を提携するには、交流の目的が一番の課題である。
- ・英語圏と言ってもアメリカだけではない。
- ・候補を絞り、検討していった方がいい。
- ・英語圏に限定すると範囲が狭くなるのではないか。

また、海外姉妹都市との交流について以下の意見が出されたということで、主な意見の要約を説明しています。

- ・交流を続け、ある程度の年数を経ってから提携してもよい。
- ・青少年を中心とした交流を目的とした方がよい。
- ・青少年から高齢者まで幅広く交流内容を広げるとよい。
- ・多く子どもたちが参加できる事業である方がよい。
- ・スカイプなどを活用し、学校同士の交流でスタートしたらよい。
- ・財源も考えたうえで仕組み作りが必要である。
- ・目的をはっきりさせて交流をすることが重要である。
- ・交流は教育・文化・経済・スポーツなど複合的にやらないと長続きはしない。
- ・ホームステイは稲城市内の受入先の確保に課題がある。
- ・ホームステイありきではなくても良いのではないか。
- ・ホテルなどに宿泊してもらい、交流することもできる。
- ・場所を絞ってから交流事業を検討した方がよい。

さらに、本年度あと1回の会議でまとめることは難しいという意見があり、委員長の判断により、これからの進め方について意見を伺い、その結果、以下の2点について、市民会議にて確認をしたということで、確認した内容について説明しています。

- ・今年度あと1回で結論を出すことはできない。そのため来年度も会議を継続し、検討することに配慮してほしい。

・この会議で都市の選定もしなければならぬので、現地を視察し、相手方を確認できるように配慮してほしい。

3. 今後のスケジュール

第4回の市民会議につきましては、3月中旬頃を予定しており、議題については、海外都市と交流するとすればどのような事業が望ましいのかということについて、意見交換を予定しています。

以上のように、この資料に基づいて、総務委員会に市民会議の経過を報告させていただきました。その中で、いくつかご意見やご質問が出されました。例えば、「この市民会議で都市の選定もしなければならぬので、ここでいいということは色々あると思いますけど、最終的に一つに、ここだということまで絞らなければならないのか」というような意見がございました。この市民会議の中で、まずゼロベースで検討していただいていますというお答えをしています。また、「稲城市として海外姉妹都市が必要なかどうか」ということを含めてご質問がございましたが、市として、市民会議の意見を尊重して進めていきますというお答えをしています。

また、「市側としては、海外姉妹都市をしなければならないという訳ではないということですね」というようなご質問や、「来年度も、あと数回やっただけで結論が出ない場合は、決まらない可能性があるのではないか。その場合にはどうしていくのか。」というご質問、「都市の選定もしなければならぬので、現地を視察し、というのもありますけれども、これは市民会議の中で、誰が、いつ、現地を視察していくのか、そのスケジュールの部分も見えない」というご質問もありました。まずスケジュールにつきましては、「全く決まっていません」、ということで、市としましては、市民会議に自由に調査検討できるようなものを配慮してほしいというご要望をいただいているということを踏まえて、最終的には提言という形で、進めていきたいというお答えをしています。

また、「次の1年だけでもある程度の結論を出して提言を出すようにしてほしいと思うので、市側としてどういうサポートをしていくのか」というご意見もありまして、まず、来年度どうするかということは、「第3回の市民会議の中で、意見を確認しておりますので、市民会議で自由に調査検討することができるように配慮し、最終的には提言という形で市民会議の中でまとめていただきたい」というお答えをさせていただいています。主なご質問・ご意見への回答についてはこのような形で整理をしており、この部分につきましては口頭でのご報告とさせていただきます。

【報告2】前回のまとめ

杉本課長：続きまして、報告2、前回のまとめということで、資料2「第3回海外姉妹都市提携検討市民会議平成27年12月17日開催(案)」をご覧ください。こちらの資料は、事前に委員の皆様にご確認いただいております。それぞれの会議の時に出されたご意見等は全部このような形でまとめておりますので、今後、皆さんの中で意見交換をする際の参考にしていただけるようにしております。この内容で特に問題がなければ(案)はとらせていただきたいと思います。

【報告3】府中市のウィーン市との友好都市提携について（検討協議会の経緯等）

井田主任：続きまして、報告3、前回の会議でご質問いただきました、府中市のウィーン市との友好都市提携経緯等について、府中市から聞き取りを行いましたので、その報告になります。資料3をご覧ください。

1. 友好都市検討協議会について

(1) 友好都市検討協議会が立ち上がったきっかけとしましては、社会情勢や生活環境の変化に伴い、都市交流の新たな展開への期待、国際化の推進による国際的視野を行政が持つことの必要性など、時代の要請に即した対応が求められていること、そして、府中においても新たな都市との交流の気運が高まっており、これを具現化するための対策を取っていく必要があるということがあり、この内容を市長が諮問して協議会が立ち上がったという経緯になります。

(2) 検討協議会の構成としましては、委員16人で、市民団体の推薦者と専門家等により構成されていたということでございます。

(3) 検討期間は昭和62年11月から平成元年の3月までの17カ月で、全部で17回の会議を行い、ほぼ月1回のペースで会議を開催していました。ただし、17回の会議全部が海外姉妹都市の検討をしていたわけではなく、第1回から第12回までの計12回の会議については、国内の友好都市について1年程度の期間をかけて検討していたということです。残りの第13回から17回の計5回で、海外の友好都市について、半年程度かけて検討してきたということでした。

(4) 検討内容・結果については、選定の基準として、歴史、芸術文化、近代的な都市づくり、共通点、交流実績、こういった選定基準に基づいて候補地を選定し、平成元年に市長に答申したということです。国内の友好都市については、この当時、府中市は既に1自治体と友好都市と提携していました。長野県の佐久穂町というところなのですが、これに加えて新たにもう1自治体と提携しようと考え、候補地を選定しましたが、相手方の都合により、締結には至らなかったということです。海外との友好都市の検討については、9自治体を候補地として選定したということです。

2. 答申後の経緯について

答申後から締結までの経緯としまして、(1)ウィーンとのきっかけ・つながりということで、ここからウィーンとの繋がりが加速していきまして、平成元年5月、都の交流事業で来日したウィーン在住の日本人より友好親善がしたい旨の話をいただき、さらに、日欧修好120周年として、府中市のジュニアアンサンブルがウィーンへ行ったり、府中市の文化ホールの名称がウィーンホールとなって平成3年に開館したりということがあり、こういった経緯を踏まえて、ウィーンとの提携の流れに繋がっていきます。

(2) ウィーンとの提携への流れとしましては、まず、検討委員会の答申を踏まえて、まず候補地を3都市に絞る作業を行い、その中で、答申で示された選定基準に最も合致することにより、ウィーン市を第1の候補地としたということでありました。なお、ウィーン市としては、友好都市提携盟約の締結は行っていないことから、ウィーン市の23区の中からヘルナルス区を提携の候補として進めることになったということです。平成4年には最終意思確認として、助役、担当の部長、課長がウィーン市を訪問して、平成4年8月に友

好都市提携が結ばれました。

なお、現在の交流事業についても、府中市から情報提供がありましたので説明します。ホームステイ相互派遣事業ということで、府中市からウィーン市の方へは、平成6年から毎年、ホームステイを行っています。実施にあたっては、委託先であるNPO法人と協働で取り組んでいるということです。対象は14歳から18歳の青少年で定員6人、期間は10泊12日ということです。一方、ウィーン市ヘルナルス区から府中市へのホームステイについては、平成20年、25年と2回実施されたということで、委託先のNPO法人や過去に府中市から派遣された生徒の家族等の協力により実施したということです。対象は14歳から19歳の青少年の、定員6人で、9泊11日ということです。

訪問団による相互訪問ということでは、友好都市提携周年記念の委員訪問として、府中市議会議員団がウィーン市のヘルナルス区を5年おきに訪問しているということです。また、府中市からの市民友好訪問ということで平成6年、平成22年には府中市のお囃子の団体や太鼓の団体がウィーン市ヘルナルス区を訪問し演奏をしたということです。その他いろいろな交流がなされているということです。

ヘルナルス区からの市民友好訪問としましては、平成8年にウィーン市長をはじめとする友好訪問団が来日しています。平成14年には提携10周年記念式典への参加のために来日し、市民と富士登山を実施しているということです。平成26年は府中市の市制施行60周年記念式典があり、そこへ参加するために訪問があったということです。

その他の交流としましては、市立の小・中学校、図書館、生涯学習センターなどの施設が、ヘルナルス区の対象施設と施設間友好協定を結んでおり、それぞれの施設でお互いのまちの紹介をするコーナーが設置されているということです。

【報告4】自治体国際化協会の姉妹都市交流を希望する自治体の紹介について

宇田係長：続きまして報告4、自治体国際化協会（CLAIR）の姉妹都市交流を希望する自治体の紹介についてをご説明します。資料4をご覧ください。

(1)自治体国際化協会の姉妹都市交流を希望する自治体の紹介方法は、自治体の申し出により、自治体国際化協会のホームページ上で、姉妹都市提携を希望している日本の自治体、海外の自治体のページに紹介情報を載せるというものになります。掲載の言語は、日本語と英語で、インターネットを通じて全世界で閲覧が可能となるということです。

(2)紹介情報の現状としては、日本から海外へ紹介している事例は2自治体で、長野県の山ノ内町と岡山県の奈義町のみとなっております。一方、海外から日本へ紹介しているのは99自治体となっております。

(3)紹介事業で提携まで至ったという実績については、自治体国際化協会の方では集計をしていないということで回答をいただいています。自治体国際化協会の支援は、紹介することが目的であり、実際に提携に結び付いたか等については、追跡調査や集計を行っていないということでした。

(4)備考としまして、クレアは紹介だけを行います。興味を持った団体からクレアに連絡が入り、取り次ぎを行ったという事例はありますが、相手先との交渉やその他連絡は各自自治体が、直接やり取りをするということだそうです。また、自治体国際化協会は紹介して

いる自治体がその後提携に結び付いた追跡調査を行っていない為、既に提携済みの自治体や、交流を希望しなくなっている自治体も、ホームページの紹介一覧に載ったままになっているということのようです。

資料3の2枚目に、参考として現時点の自治体国際化協会のホームページで、日本の自治体が海外へ紹介されている部分の日本語のページを付けています。長野県山ノ内町については平成25年6月からデータは更新されていませんが、岡山県奈義町については、平成28年1月掲載ということで、わりと最近のものになっています。

なお、前回の会議の中で、自治体国際化協会はどのように運営しているのか、主な収入源等についてご質問がございました。事務局で調べた限りですが口頭でご説明いたします。収入の多くは、各都道府県や政令指定都市からの分担金が占めています。この分担金は、国際交流推進くじ、いわゆる宝くじになるのですが、都道府県などが発売者となって出しているものになりまして、その売り上げの何パーセントかを分担金として、国際交流に役立ててくださいということで、この団体へ納めているということでした。

委員長：ただ今、事務局から説明がありましたが、何かご質問等ございますでしょうか。

委員：府中市とウィーン市との交流事業については、行政から補助金などは出ているのでしょうか。NPOとの協働で青少年6名がホームステイに行っていますが負担はどのくらいですか。

井田主任：高校生の派遣事業につきましては、市がNPO法人に委託して実施している事業であり、委託料として約170万円を市が支払っているということです。なお、参加者は自己負担として20万円を出しているということです。

委員長：NPO法人の名称は何というのでしょうか。

井田主任：NPO法人府中国際友好交流会です。

委員：府中市検討協議会は、昭和62年から検討を始めて、市長に候補地9自治体を答申したのが平成元年3月ということですが、ウィーン市との繋がりができたのはその後です。答申した9都市の中には、ウィーン市は入っていたのでしょうか。

井田主任：調べた中では、9都市の中には入ってはいなかったということです。

杉本課長：府中市から聞いている話の中では、協議会の会議の段階では特に候補には入っていなかったらしいです。答申にあった選定基準に基づいて、いろいろ歴史だとか、府中との繋がりがだとか、情報を集めてきた中で、ウィーン市になったと聞いています。

委員長：他にいかがでしょうか。

委員：府中市の経緯で、候補地を3都市に絞った段階では、ウィーン市は候補に入っていたという形でしょうか。3都市というのはわかりますか。

井田主任：お調べして、後日ご回答いたします。

委員長：他にいかがでしょうか。

委員：自治体国際化協会の紹介事業は、検証を行っていないということで、あまり頼りにならない団体のような感じがしてしまいます。

杉本課長：自治体国際化協会は、他の業務もやっていて、国際交流の実績の調査等もしています。

宇田係長：調べた中では、自治体国際化協会の事業の計画というものがホームページ上に載ってまして、自治体の海外における経済活動を支援するというもの、多文化共生のまちづくりの支援、草の根交流、次世代グローバル人材を育成するジェットプログラムの推進、多様な

国際交流の支援、自治体のニーズに応える情報収集・発信を強化、というような、全体で7点くらいを事業としてやっているということです。自治体に対しては、物産展を海外で行う際の支援や、いくつかの海外都市に事務所を持っていますので、現地でないとは分からないような調査を自治体から受けて実施したりしています。また、ジェットプログラムというものもあり、海外の、例えばアメリカやヨーロッパなど、現地の方を日本に招いて、自治体等に就職をしてもらい、国際交流の窓口や助言等をしていただく内容も推進しています。

杉本課長：ニューヨークやロンドン等、海外事務所が7つあるということで、そういうところで国際交流の橋渡しをしているということです。

委員長：他にないかありますでしょうか。

<意見等なし>

委員長：意見は出尽くしたようですので、次にまいります。

<委員1名、都合により早退>

【議題1】海外都市との交流事業等について

委員長：それでは議題に入らせていただきます。議題1、海外都市との交流事業等について。前回の会議では、スカイプなどを活用し、学校同士の交流をスタートするというご意見、そして、青少年を中心とした交流を目的にした方が良いというご意見や、反対に、青少年から高齢者まで幅広く交流対象を広げると良いというご意見、交流は教育、文化、経済、スポーツなど、複合的にやらないと長続きしないというご意見。茶道・華道などの交流をした方が良いというご意見など、様々なご意見をいただきました。本日はさらに、具体的な交流事業等について、議論を深めていただき、市民会議として意見を集約していきたいと思っております。なるべく皆様にご意見をお聞きしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。いかがでしょうか。

委員：この会議は、どこまでの結論を出せばいいのでしょうか。そもそもの出発点は、昨年、市長がフォスターシティ市へ行って、その継続で、この会議が立ち上がりましたが、会議の中では、フォスターシティ市だけではなく、この際だから、いろいろ交流を深めるため検討のできる会議を作りましょうということで進めてきた訳です。しかし、結果的には、現状では具体的なものとして、何を目的にするかということ自体もまだ決まっていません。今後、都市も決めるとなると、さらに会議が続いていってしまうのではないかと思います。この市民会議の結論として、どの辺までを最終的に答申していけばいいのかをまず聞きたいと思っております。

武藤部長：今お集まりいただいている市民会議は、平成27年度に4回までを開くという形をお願いしているところではありますが、これは前回の第3回の会議の時に確認させていただいた通り、残り1回の会議で結論を出すのは難しいというご意見がありましたことから、行政としては、来年度も引き続き、この会議を継続していただきたいという考え方で、今、予算

を計上しています。

また、この市民会議の役割としましても、今、3つのミッションがあります。まず一つ目は、国際交流の在り方として、やるべきなのか、やらざるべきなのかという、そもそもの考え方について。二つ目は、やるとした場合、何処が候補として相応しいのかという、候補地の選定について。三つ目は、具体的な交流事業の内容についてです。この内容につきまして、市民会議で提言としてまとめていただきたいと考えており、この提言が最終的な帰着点としてお願いしたいと考えています。

委員 長：皆様ご意見いかがでしょうか。

委員：このままランダムに各委員に話を聞いていっても、また何をやったか分からない時間が過ぎてしまうのではないかと思います。今、3つのミッションの話がありました。やるかやらないか、何処とやるか、何をするか。まずは、やるか、やらないかというところから議事をするべきだと思います。これに関しては、会議も4回目となり、既に随分と議論して、いろいろな意見が出ていました。歴史もあって、ゼロから検討したらいいという人もいれば、私のようにやってしまうのが良いという人もいて、色々だと思いますが、やった方がよいという意見が多かったように思います。その辺から話をしていた方がいいと思いますが、いかがでしょうか。そうしないと、話があっちこっちと、本当に訳の分からない会議になってしまうと思います。

委員 長：それでは、ここで1回意見を取って見るのはいかがでしょうか。

委員：私はその方がいいと思います。そうしないと会議が進まないと思います。

委員 長：事務局はいかがですか。

武藤部長：委員長のお考えの中でやっていただければと思います。

委員 長：ある程度は話してきましたので、ここで1回、この市民会議として、海外姉妹都市を行うか、行わないかを聞いてみたいと思います。海外姉妹都市を行うという方、挙手をお願いします。

委員：やるか、やらないか、YESかNOかということですね。今はYESの人が手を挙げるということですね。

<挙手全員（13人）>

委員 長：13人中13人。全員ということですね。

委員：先ほど3つのミッションということと言えますと、今、考え方はだいたい同じ方向へ向かっているということであれば、もう、候補地の選定の方法論になります。となると、やはり交流事業の中身をどうしたらいいかというところを絞り込んで、具体的に話をした方がよいと思います。また、先ほどの資料の中身を見ますと、選定をしていく上で、自治体国際化協会を利用していくのは現実的に非常に難しいと思いました。また、府中市の提携についても、具体的に市民会議で答申まで行ったのに、結局、最終的には別なところになったということであれば、稲城市としても、市民あるいは市民団体と関わりのある海外都市とか、そういうところから洗い出しを行って、そこである程度絞り込んでいった方が、現実的ではないかと思います。お見合いもそうですけど、ある程度、仲介してくれる方がいい

ないと、こういう話は現実的な話にはならないのではないのでしょうか。

委員 長：他にご意見いかがでしょうか。

委員：一応、海外姉妹都市については賛成という立場では手を挙げたのですが、正直なところ、まだよくわからないし、もう少し検討する必要もあるのかなという部分もあり、まだはっきり整理されていません。

委員：私も同じような感じです。海外姉妹都市をやっというのは、いいとは思いますが、本当に候補地から選んで提携に至れるのか、何かきっかけがないと難しいのではないかとということがあります。また、もう一つ、フォスターシティ市というのが引っかかっているところがありまして、これに関して、フォスターシティ市へは稲城市から行って、たしか向うからは来ていない。こっちから行っただけですね。その辺もあやふやな状態で、まだ向うとも宙ぶらりんの状態を続けて行くのか、その辺の回答もきちんとしていなければならないのではないかなと思います。フォスターシティ市訪問については市がやったことですので、この市民会議でどうのこうのということではないと思いますが、そこも引っかかるところではあるのかなと思います。

委員 長：参考までに事務局に聞きたいのですが、フォスターシティ市との何か関わり合いというのはどうなっているのですか。例えば、その後の経緯を聞かれていたりとか、メールのやり取りがあったりするのでしょうか。

武藤部長：クリスマスや正月があった関係で、仲介をしていただいたフォスターシティ市の日系の元市議会議員、ここで任期満了で議員を辞められたことは公になっていまして、この元市議の方へ、儀礼的に市長の方から、クリスマスの「メリークリスマス&ハッピーニューイヤー」というような形のグリーティングカードをお送りし、それに対する返戻で「どうもありがとうございます」というようなお返事は来ています。

委員：そうすると、市と市でやっているというよりは、市と一般の市民の方と、やり取りをしているということでしょうか。

武藤部長：はい。

杉本課長：まだ状況を説明しているだけです。市民会議の中で海外姉妹都市について意見をいただいているところですので、まだ向うに、いいとも、悪いとも、全く話をしている状態ではございません。市長を含めて3人で訪問した経緯もあることから、向こうへは、今年の9月議会の状況や、市民会議で海外姉妹都市について検討しているということを報告しているだけであります。

委員 長：他にご意見ありますでしょうか。

委員：せっかく、このようなきっかけができたということですので、フォスターシティ市も検討の中に入れたらいいと思うのですが、その反面、国際交流の会の方が今まで築き上げてきた交流もあると思いますので、そこら辺も踏まえて、まずは、どちらの方向にしていったらいいのかを、ある程度皆さんで方向付けをしていければいいと思います。

委員：今、府中市の例が出ましたが、府中の場合は高校生の相互派遣や、施設間の交流などを実施しています。その他に、例えば、立川市の場合は、カリフォルニア州のサンバーナディノ市と提携していて、立川市には米軍基地があり、サンバーナディノ市にはノートン空軍基地があるという共通点や、日系アメリカ人が多いという点で結びついたということです。

青梅市の場合は、ドイツのポッパルト市と、当時青梅市に在住していた蛇の目ミシンの方を介して提携に結びついたということです。また、日野市の場合は、カリフォルニア州のレッドランド市、国分寺の場合はオーストラリアのマリオン市、あきる野市の場合はマサチューセッツ州マールボロウ市、奥多摩町の場合は中国浙江省。それぞれ、交流の目的とか規模とか距離だとか、提携した理由には色々な関係があります。そういったことを全項目全部調べて、稲城にとって参考になるのかどうか、どういったところが参考になるかを検討していったら、もっとピンと来るような感じがします。

また、アメリカだけではなく、インドやベトナムだとかも、今後は日本との関係が結構出てくると思います。経済交流などが民間交流へと繋がっていくことはよくあるので、そういう視点から候補地を選定していくのもよいと思います。

ただ、自治体国際化協会も、こういったものがあるくらいには、参考にはできると思います。いずれにしても、稲城がどういう観点でどのような点が参考になるかを検討するのがいいと思います。

委員：この先、進まないような、話が行ったり来たりしている会議だと私も感じています。もう第4回の会議になっていますので、少しずつ具体的に絞り込んでいかなければいけないと思います。相手先についても、一方通行の国を選ぶのではなく、今まで稲城と交流のあったところを、教育委員会で交流をしていたオレゴン州とか、モンゴルとか、そういうところも、姉妹都市の候補として考えてはいかがでしょうか。オレゴンは本当に稲城の子どもとの交流が大変ありましたし、向うも希望してずっとやってきたものですので、それを今度は、稲城市としての姉妹都市として考えてもいいのかなと私は思います。まだ国も決まらないで、先に進まない会議だと私は感じてしまいます。例えば、いつ頃までにある程度決めたいというような目標は無いのでしょうか。来年度にも決まらなければ、その次も続けて行くというダラダラした感じではなく、きちんとした時期の目標を出したらいかがでしょうか。

委員長：私もそう思います。委員長の立場でなければ、目標期限を決めて、それに対してどんどん進めます。事務局いかがですか。

杉本課長：まず、最初に部長の方から3つのミッションと言う形をお願いさせていただいています。この平成27年度の4回の会議の中で、意見がまとまれば、そこまでという話もあったと思いますが、今、これだけの課題の中で、いろいろなご意見を出していただいて、在り方についてもそうですし、交流の内容だとか、候補地の洗い出しなども終わっているのですが、まずはこの会議の中での、いろいろ検討できる素材というのは出てきていると思っています。それを踏まえて、また、前回の会議で次年度についても配慮していただきたいというご意見もあったことから、来年度に向けて会議の予算、それと、どのようにも動ける形での準備ということで、議会の方へ上程しています。議会を通れば、1年間、予算を使えますので、予定ではこの市民会議の回数は5回をあげてますが、6回がいいのか7回がいいのか、また、例えば分科会を作って検討するのか、そういうことも含めて、この市民会議の中で一定の方向が出てくれば、事務局としては、いいと思っています。しかし、会議の進行について、特に期限を定めてこの1年の中で全て決めなければいけないということはありませんので、例えば、市民会議の中で、2年も3年もかける必要はないということ

であれば、次の1年間で、整理ができてしまうこともあると思いますし、若しくは2年かけて検討するという方向になれば、そうなるかもしれません。その辺のところは、今、議会にも上程中ですので、議会の方で予算が通れば、再度、仕切り直しをさせていただいて、今年度の4回の市民会議の中で出てきたいろいろなご意見等をベースにして、新たに28年度で方向性を出していただき、なんらかの形で整理ができればよいと思っています。

委員：例えば、28年度中に全て整理ができればいいという目標はないのですか。

杉本課長：市民会議の中で、28年度の中で決めましょうという目標を設定していただければ、そのようになりますので、それは市民会議の方をお願いしたいと思っています。

委員長：他にいかがでしょうか。

委員：国際交流の部分は実施したいということは、委員全員の一致した意見ですので、次は、場所とか選定方法、対象とか、そういう部分だと思います。この市民会議はゼロベースでやりましょうということで、いろいろな意見が出てきている訳ですから、出てきた意見をまとめていただいて、その中で、市民会議でどこまで検討していくのがいいのかを決めるのがよいと思います。例えば、今後、候補地に「姉妹都市をやりましょう」と意見を投げかけたとしても、はたして向う側にも意向というものがありますから、上手くいくとは限りません。やはり、1か所決めましょうというのはなかなか難しい部分があると思いますので、何か所か、少しずつ絞っていくのが良いと思います。また、対象とか目的なども、いずれ絞っていかないと、様々ところに多岐に渡ってしまっただけでは、なかなか上手いこと進まないと思います。

また、検討の期限という話も出ていますが、姉妹都市に向けて、皆で検討するという方向で進んでいますが、例えば1年検討しても最終的に相手側から駄目と言われることもあるでしょうし、2年検討したら決まる場合もあるかもしれませんし、これは分かりませんが、少し候補地を絞った方がよいと感じます。個人的な意見になると、やはり、場所としては既に何か所も意見が出てきていますので、その場所について、もう1回話し合っていくのがよいと思います。

消防と言う部分では、先ほど、立川市がカリフォルニア州と姉妹都市を結んでいるという話が出ていましたが、稲城市も多摩サービス補助施設があり、カリフォルニア州とはそういう部分で共通し、防災面ではカリフォルニア州はすごく共通する部分があると感じました。

委員長：先ほど事務局からの説明にもありましたが、やはり、小・中学校では英語がだいたい使われているということを踏まえて、英語圏がいいのではないかと、そういうご意見も非常に多いと思います。その辺について、いかがでしょうか。徐々に候補を絞っていきたいと思うのですが。

委員：最初に事務局の説明に会ったように、平成27年度の会議は今日で最後だと思います。しかし、本市民会議はゼロベースで検討をやってきて、まだ全然意見が出切っていないと思っています。とりあえず今日で本年度は終わりとして、どこまで今日は決めなければいけないのでしょうか。また、来年は会議5回を予定しているという話がありましたが、その辺の内容などもどうなるのでしょうか。次年度いろいろな動きがあるという話を聞いているので、27年度はこの会が最終回で、28年度になったら、またどういう風になるのか、

一部の委員も変わると思うのですが、その辺は基本的にどのように考えているのかということをお聞きしたいと思います。

また、市民会議の中では、確かにいろいろなご意見が出されて、いろいろな方向に向かっていると思いますが、会議1回2時間という時間は短くて、一生懸命ご発言している方もいると思いますが、ある部分では、全員の方からもう一步の部分の声が出ていないと思います。無駄な時間かもしれませんが、まだ、このようにして意見を叩き合わせた方がいいと思います。委員長が、英語圏云々と仰っていましたが、今までの経過などを踏まえて、英語圏じゃない所も、話には結構出ていますし、稲城市としても英語圏じゃないところとも交流があった訳だし、もう少し考えて時間をかけた方がいいと思います。

それと、府中市の例のように、候補地として選定しても成功するかは分かりません。結婚と同じで、相手のあることですから、やはり簡単ではないと思います。何か所か選定していかないといけないと思います。これから次年度も検討を続けるということで、本年度の4回ではまとめられないという方向であるならば、そう動くのがいいと思いますし、事務局も、そういう動きで議会へご報告していると聞いています。その中で、一番言いたいことは、この会議の前に、最初に行政の人達が先に行ってしまったのが間違っていたと思います。府中市の例を見てもわかるように、きちんと市民会議を全部で17回開催していて、それが行政の手法というものです。こちらの場合は、行政のトップが先に行ってしまう、上手くいかなかったから、市民会議に差し戻しているように聞こえる訳です。はっきり言って、このようなやり方をする行政は、国にだってありません。市長が先に行く場合もありますが、そういう話だって、市長や国会議員が絡んでいても、実際は、各役人が、きちんと根回しをしておいて、結果的に市長がやったのだという風にまとめるのが行政のやり方だと思います。第1回の会議のときにも言いましたが、市長が視察に行ったときの資料は、何度読み返しても、何をしてきたのか全然分かりません。あの市が云々ではなく、何のために予算をかけて、視察に行ってきたのか、行政から出てきた資料からは一切分かりません。市民も分からないから、9月議会の中でああいう風に言われてしまったのではないかと思います。議員さんが言ったから全部だとは思いませんが、議員は市民の代表ですから、それを踏まえて重々に考えて、この市民会議を持たないといけないと思います。それでは、1点目の次年度の予定についてご説明ください。

武藤部長：議会に上程中の予算の関係になりますので、まだ決まっているものではありません。市として、どう考えているのかという点でご説明いたします。まず、市民会議の委員の構成としましては、海外の経験のある市民の方を加えた方がよいというご意見があったことから、そういった方をできたら公募し、人数を2人増やしたいと考えています。

それから、全体的な会議の回数としましては、5回という形で計上していますが、その他に調査費という形で、何に使っても大丈夫なように、例えば、ご意見いただいたような専門部会を作って、より少人数で細かく議論していくということも一つの方法でしょうし、また、この会議をもっと議論をするためには5回では足りないと言うことであれば、その回数を増やしてもらったりすることができるようになっていきます。また、例えば、国内でいろいろな先進している自治体があって、そこの意見を聞きたいということがあれば、そういったことにも使えます。また、最終的にどこか候補地が決まってきたら、都市を見に行

きたいという場合にも使えます。これは第3回の市民会議で、「ご配慮を」というご意見もございましたので、自由に使っていただけるように、報償費の中に調査費として200万円ほどプラスしまして、全体として270万円の報償費の予算を上程させていただいています。

従いまして、来年度、もう1回仕切り直しをしていただいて、今、色々なご意見が出ていますので、そのやり方、決め方、進め方などをご議論いただいた中で、どの方法が良いかを決めて進めて行っていただくのがよろしいと考えた中で予算化をしたところです。

委員 長：他にご意見いかがでしょうか。

委員：前向きに考えて行くということは分かったのですが、やはり何処の市を見ても、知っている方が在住しているとか、相手先を知っているとか、そういう何らかの関係があるところが、姉妹都市になっている気がしています。ですから、このメンバーの中にも、そういう、「私ならこの都市を知っている」とか、「あそこの街なら知っている方がいるから、あそこに話を聞いてみよう」とか、そういう具体的なところに詰めていかないと、ただ漠然と何処とは決められないと思います。もし、そういう方々がこの中にいないのならば、やはりさっきの自治体国際化協会ですとか、そこがあまり頼りにならないということでしたら、他にも国際交流の関係の団体はありますから、そういう専門家を交えて、「この都市だったらどうだよ」とか、「ここの都市だったらありだよ」というアドバイスをいただければ、その中で市民会議としても検討ができるのではないかと思います。ただ、本当に漠然と意見を出しても、全然決まらないです。

委員：皆さんが仰るように、何処を選定するかについては、かなり難しいと思いますので、今まで国際交流をしていた所なり、どなたか紹介してくれる所なり、一番最初に話にあったフォスターシティ市も候補に入れて考えていくのも良いと思います。

また、PTA連合会という立場からすると、子ども、学生をメインで国際交流をするのか、それとも商業ベース、経済的な面から交流をやっていくのかなど、方向性を決めたらと思います。

委員：意見はもう出尽くしていると思います。今後は、具体的に話ができればと思います。

委員 長：いろいろな率直な意見が出てきました。いずれにせよ、今日で決定していることは、「海外姉妹都市はやろう」ということですので、その辺は、第一歩進んだのかと思います。後は候補地の選定ですが、選定方法とか、交流の業種についてはいろいろな意見もあると思います。私個人としましては、今、世界で一番熱い場所はシリコンバレーです。私も一度向うの方に行ってこようと思っているのですが、何故かという、発明家と言えば以前は日本だったのですが、今は違います。今は、巨大なお金を持った人がシリコンバレーに巨額の投資をしています。シリコンバレーにはアイデアを持っている人が集まってきましたが、日本から1%もいないんです。アジアで一番多いのは韓国です。インドとか中国などいろいろありますけど、韓国の方が非常に頑張っているということで、巨額なビッグマネーを受け取っているということです。それもアイデア一つを持った個人です。医療器具とかの分野もそうですが、今はそういう時代です。日本の首相は200社出すと言っていました、私は、個人的には、また、商工会の立場では、フォスターシティ市とかのシリコンバレーはいいなと思っています。

委員：たぶん意見が一致しているのは、絞り込みましょうということです。絞り込み方法については、先ほどご提案があったような専門部会を立ち上げるなどの方法がありますが、その辺を今日決めていかないと、進まないような気がします。例えば、候補を皆様にここで聞きして、その中から、「ここならこういう交流ができる」などについて検討する。私が以前ご紹介した論文にも書いてありましたが、やはり目的をしっかりとっておかないと、最終的に失敗してしまうと思います。やはり異文化コミュニケーションを進めるために、こういった目的で、そういった交流をするかということを検討する必要があります、そのためにも、まず絞り込んで、「ここならこう交流ができる」ということを、部会を立ち上げてやるのか、この市民会議で進めるのか、それは難しいと思いますが、その辺まで決めてしまった方がいいと思います。

杉本課長：今いただいたご意見も含めたことなのですが、まずこの市民会議のこのメンバーにつきましては、平成27年度の1年間をお願いしていますことから、本日で最終ということになります。また、予算が議会を通りましたら、再度、各種団体に推薦依頼をお願いしたいと考えています。28年度の第1回目の市民会議も、これから準備に入っていかなければいけないのですが、本日、いろいろご意見いただいて、先ほど委員長からもありましたが、海外市姉妹都市については、前向きに検討しましょうという方向は一つ出ています。そうした中で、今回、市の方で、在り方だとか、候補地の選定、交流事業と言う形で、大きく三つお出ししている訳ですが、あまりにもこの3つが大きい考え方ですので、例えば在り方であれば、海外姉妹都市をやるのであれば、どういうやり方がいいのか等を細分化していきたいと思います。例えば、交流するとすれば、その窓口はどうするのかなど、こちらは市議会の方からご意見が出ていたものなのですが、そういったことをもう少し、項目の中で細分化していきたいと思います。つまり、3点の中の一つについては、こういう内容をもっと少し煮詰めたらどうかということ、行政の方で分類を試みたいと思います。その後で、候補地の選定についても、いろいろな意見が出てきた中で、例えばアジア圏がいいのか、ではアジアであれば何処がいいのかというようなこと。また、他の市ではどういう所でやっているのかだとか、今回の意見で出ていたことを含めて、少し資料を整理させていただいて、次回の第1回目の会議の時に、再度新しいメンバーを含めて、今まで出てきた内容を含めて、ご議論いただければと思います。

どういう内容をもっと少し具体的に市民会議の中で意見交換をして、方向性を出さないといけないかという考え方は、皆さん一致しているのかと思いますので、その辺のところを再度、行政の方に預らせていただいて、内部でご提案できるような整理をしていきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

武藤部長：先ほどからご意見があったように、議論が行ったり来たりしてしまっているということがあります。やはり事務局としては、皆さんが論点を絞ってご議論いただけるようにするという役目ですので、そこの部分については、持ちかえらせていただいて、次回にはいくつかご提案をさせていただきたいと考えています。

委員：皆さんから、目的と言う言葉がすごく出ていると思います。今日で平成27年度このメンバーでの会議はお終いになるのですが、行政として、しっかりした目的や考え方をきちんと出していただかないと、話は進展しないと思います。選定と言う話も出ていますが、そ

の前に稲城市としての姉妹都市の目的について、いくつか市民会議でも意見があがっていますが、それを行政で細かく整理し、それを次年度の第1回の会議で出していただき、そこから議論していくという形にしてもらった方がいいと思います。目的がいろいろ出てきてしまい、本当に稲城市の目的でいいのかというところもありますので、是非その辺の整理をしていただきたいと思います。

委員 長：先ほど事務局からもありましたが、今回の会議が本年度最後ということで、次回は若干メンバーは変更になるということです。小さな専門部会までできればいいのですが、それも少し難しい部分があるのかと思います。そういう意見もあったということで、次回につなげていただければと思います。それ以外で何かご意見はございますでしょうか。

委員：新年度に継続してこの会議を行うということですが、もしメンバーが変わるとなれば、新しく入る方々はこれまでの経緯を全く知らないで入ってくる訳です。そういう人たちがすぐに内容を理解できるか少し不安がありますので、できたら行政の方で、各団体に継続して同じ委員を出して欲しいという文書を出してもらえればと思います。その辺はどういう風にお考えでしょうか。途中から会議に参加すると、それまでの経緯が分からないため、議論の内容もさっぱり分からないことが多いと思います。

委員 長：一つの柱としては姉妹都市を作るための会であるということが決定したのですから、事務局の方で募集される時に、その辺はきちんと理解してもらおう訳ですよ。

杉本課長：各種団体からの推薦なため、そのような強制的なことはできませんが、当然、新しいメンバーに代わりましたら、きちんと行政側の方で、その経過等についてはご説明させていただきます。今までの27年度の検討の経緯などにつきましては、それぞれの会議ごとに、ご意見等をまとめていますので、それをきちんと提供させていただいて、メンバーが変わっても、対応いただけるようにしていきたいと思います。

まずは、今回のこの15の団体の皆様には、ここで一度年度が切れますので、再度、団体の長に、新たな選出をお願いさせていただきたいと思います。それと、先ほど部長からお話しをさせていただきましたとおり、海外の経験を踏まえた方も、市民公募していきたいと考えていまして、予算が通れば、そのような形で進めて行きたいと思います。

委員 長：よろしいでしょうか。

<質問等なし>

【議題2】その他

委員 長：それでは、議題2、その他の方に入りたいと思います。事務局より説明をお願いします。

杉本課長：その他の中で平成28年度予算の話をしていただこうと思っていたのですが、先ほど部長の方から詳細の説明がありましたので、ここでは、今後の予定を含めてスケジュールについてご説明いたします。現在開催中の市議会にて28年度の予算が通りましたら、委員の市民公募を実施したいと考えています。公募が終わりましたら、5月の下旬ころには、第1回の市民会議を開催したいと考えています。それまでに、約2か月ありますので、行政側での宿題、今日お話しいただいた内容を含めまして、市民会議の3つのミッションの中の、細かい内容をどういう風に整理するのかというところを、再度整理させていただき

たいと思います。また、先ほど行政側として海外姉妹都市の目的というのを少し明確にしてほしいというご意見がございましたので、今回の会議の意見も踏まえまして、整理をさせていただいて、平成 28 年度の第 1 回の市民会議の場でお示しし、ご検討いただければと思います。いろいろご意見等はあると思いますが、是非、ご協力の方をお願いいたします。

委員 長：それでは、最後に何か、ご質問等ございますか。

<意見等なし>

委員 長：それではこれで第 4 回稲城市海外姉妹市都市提携検討市民会議を終了いたします。どうもありがとうございました。